

# 「スマートグリッド（次世代電力網）の普及に関する政策」

一橋大学 法学部 二年  
若槻陸

## ・ テーマ設定理由

福島第一原発の事故後、国内では脱原発依存の気運が日々高まっていますが、日本の第一次エネルギーにおける原子力の割合はこれまで約3割と非常に高く、脱原発依存を成し遂げるには再生可能エネルギーの普及が必須です。

スマートグリッドとは電力インフラと通信インフラとを融合させた新しい電力供給システムであり、再生可能エネルギーを普及させていくためには不可欠の技術であります。スマートグリッドが普及することのメリットを簡単に説明させていただきます。まず、本来不安定な再生可能エネルギーを安定的に供給することができるようになり、また料金などの電力情報を需要者がリアルタイムで把握できるようになり、需要と供給の最適化が図られます。さらには充電インフラが確立することにより、電気自動車の普及にも寄与することができます。



## ・ 政策提言

このように様々な魅力をもったスマートグリッドですが、その普及には様々な課題があります。そこで、今回私は次の3つの政策を提言させていただきます。

まず一つ目は、省庁間の縦割り問題です。現在の日本では、エネルギーは経済産業省が、通信は総務省が、次世代自動車インフラは国土交通省が、地球温暖化対策は環境省がといった形で、スマートグリッドに関わる様々な分野に対してそれぞれ担当省庁が違うというのが現実です。これらの省庁の相互連携は不可欠でありますので、これらの省庁をスマートグリッドに関して統括する政府機関が必要なのではないかというのが一つ目の提言にな

ります。

二つ目は、電力業界の閉鎖性の問題です。スマートグリッドのような革新的なインフラには、かつてのインターネットのようにイノベーションが必要であると思います。そこで昨今の業界の閉鎖性を打開し、ベンチャー企業のような新たなアクターが参入しやすい下地を作るためにも、関連事業に減税などの政策的投資を進めることが必要なのではないかと思います。

三つ目はセキュリティ対策です。スマートグリッドは IT 技術でもありますので、必ずサイバー攻撃が想定されます。スマートグリッド関連機器にはまだまだ設計段階のものも多いので、現段階からセキュリティ対策予算をつぎ込むことによって脆弱性を初期段階から除去すべきではないか、というのが三つ目の政策提言になります。」

### ・長島昭久議員のコメント

**長島議員**「このスマートグリッドを導入するというのはこれから本当に不可避だと思います。例えばこれから原発が減っていくとともに、各家庭が太陽光で発電をし、また企業が自家発電で電力を生み出すようになると思います。それらを電力会社が発電した電力も含めて送電網につなぎ、リアルタイムで出し入れを調整できる仕組みはスマートグリッドしかありません。ではスマートグリッドの開発は民間企業が行うとして、その管理はどうしますか？」



**若槻**「管理は国が責任を持ってすべきなのではないかと考えています。例えば中国はそもそも現在の電力網が不安定だという側面もありますが、その点の克服も含めてスマートグリッドを国家ぐるみで管理しようという体制ができているようです。」

**長島議員**「そうですね。つまり系統電力網についてはスマート化して送電とともに国が責任を持ちます。そして発電と配電は民間企業がそれぞれ担当し、市場の自由化、電力料金の変動化など、こういった流れにいずれなっていくだろうと思います。何年くらいでここまで行くと思いますか？」

**若槻**「最低でも10年はかかると思います。」

長島議員「最低でそのくらいはかかるでしょうね。この前、再生可能エネルギー促進法というものを成立させましたが、結局このスマートグリッドの普及、また電力の自由化が進まなければ、再生可能エネルギーを普及させることはできません。だからこれらは本当に重要なことです。その上での最大の懸念の一つは先程挙げてくれたセキュリティの問題です。スマート化すればするほどセキュリティ上の課題というのは大きくなっていきます。ですからここは特に力を入れてやっていかなければなりませんね。まだまだ心許ない部分もあるので、また研究を深めて成果を教えてください。」

### ・政策提言を終えて

今回インターンの集大成として政策提言という機会を設けて頂けて本当によかったと思います。私たちインターン生は各々興味・関心のある分野についての勉強を深めることができ、さらには長島代議士に向かってアウトプットすることで各自の至らなかった点を明確に把握することができました。またそれは、代議士が一人一人の発表に対して本当に正面から意見をぶつけて下さったおかげでもあります。まさに代議士がアメリカ留学時代に実感したとおっしゃられていた、「議論に立場は関係ない」という姿勢を実感しました。

今回の政策提言は長島事務所のインターン生としては初の試みだったようですが、全体としては以上のようにとても有意義なものであったと思います。それと同時にいくつかの改善点も見えました。例えば提言案に対してただ代議士と発表者とのやりとりになるだけでなく、そこからさらにインターン生全員で意見をぶつけ合うことができればまた違った視点も出てきたでしょう。そしてそれを実現するためには、インターン生全員が一つのテーマを研究してその成果を発表するなどといった形をとることも必要なのではないかと思います。いずれにしても政策提言発表は今後のインターン生にとっても素晴らしい機会になることは間違いないので、改めるべきところは改め、さらによいものにして行って欲しいと思います。

